

伊勢神宮（中江藤樹）

光華 孝徳 無窮に 續き

正に 儀皇と 業も 亦 同じ

黙禱す 聖人 神道の 教

六合に 照臨す 太神宮

作者 中江 藤樹近江国（滋賀県）出身の江戸時代初期の陽明学者。近江聖人と称えられた。

語釈 ※光華Ⅱ美しく光ること。かがやき。

※孝徳Ⅱ神仏の慈悲。加護。おかげ。※無窮Ⅱ永遠。無限。※續Ⅱ略字は続。※儀皇Ⅱ天皇のために犠牲になる。※業Ⅱ仕事。業務。職業。学問や技能を身につけようとする事。※聖人Ⅱ人格、徳行にすぐれ理想的な人物として尊崇される人。※神道Ⅱ日本民族固有の伝統的な宗教的实践と、それを支えている生活態度及び理念。大和朝廷によって国家的祭祀として制度化された。※六合Ⅱ上下と東西南北の六つの方角。天下。世界。※照臨Ⅱ日月が天上にあつて四方を照らすこと。また、神仏などが下界を御覧になること。※太神宮Ⅱ天照大神をまつる神宮。すなわち伊勢神宮の称。

通釈 伊勢神宮に於ける神仏のご加護は永遠に続き、それは、天皇の為の業務もまた同じ。黙禱すれば、聖人による神童の教えが得られ、全世界をも照らしめす事が出来る大神宮である。